

二〇二二年度 大阪公立大学個別学力検査(一般選抜 前期日程)

国語「出題の意図・解答例」

第一問

問一は、以降の本文の内容を理解するための導入として、民藝の「つくり手」に関する一般的な考え方が理解できているかを問う問題。(注一)に示されている、一般的な「民藝」の定義もふまえて説明する。

問二は、民藝作家が民藝の美を作り出すために必要な「自由」について、筆者が説明する柳宗悦の考え方を理解できているかを問う。傍線部の後の段落で述べられている内容をふまえて説明する。

問三は、比喻を多用した説明を正しく理解できているかを問う。山登りや仏道修行の比喻を解釈し、民藝の「作家」と「工人、職人」それぞれの修業や美の生み出し方の違いを理解し、なおかつ両者が目指す「山頂」が同じであるとは、民藝ではどういふことの比喻であるのかを、わかりやすく説明することが求められる。

問四は、問二で解答した「自由」の説明や、問三で解答した工人、職人のあり方をふまえて、「小さな」個性から解放され自由になった先に得られる「大きな」個性とは何であるかが理解できているかを問う。直前の「小さな」個性と比較しつつ、具体的に説明する。

問五は、問四をふまえて、筆者が考える「民藝における創造の核心」とは何かを問う。本文の主旨を把握できているかが問われる。「食べる」比喻を的確に解釈しながら、傍線部以後本文の最後まででの二つの段落で述べられている、「眼と手」の問題や、「消化」するとはどういふことかを、自分の言葉でわかりやすく説明することが求められる。

第二問

問一(解答例)

- Ⓐ 異議 Ⓑ 嫌(厭) Ⓒ 委

問二(解答例)

国家

※この解答例は、原文通りであり、解答の一例である。

問三(解答例)

エ

問四は、封建身分制社会と近代市民社会の違いという本文前半の主要論点が理解できているかどうか、その違いが倫理面でどのような矛盾として現れるか、具体的に理解できているか否かを問う。

問五は、「合意は拘束する」という簡潔な命題の形で表現されていることの内実を、前後の文脈から言葉を補って敷衍できるか否かを問う。

問六は、「自由」と「秩序」という一見矛盾した概念がどのように両立するか、すなわち、本文後半の鍵概念である、市民社会の「同意の原理」というものが理解できているか否かを問う問題。

問七(解答例)

個人の自由と選択を拡大するものとして

※この解答例は、原文通りであり、解答の一例である。

第三問(A)

問一は、同一人物が再登場する場面を確認させることで、ストーリー展開を追うことができているかどうかを問うもの。

問二は、基本的な語彙や語法の理解を確認するための設問。

問三は、他人の衣を盗んだことで不安に駆られる女の心理を推測させる問い。「さればこそ」という慣用表現の理解もあわせて確認しようとするものである。

問四は、前後の文脈を踏まえた上で、男にとって「浅からず思ひしもの」が誰であるかを判断させる問い。

問五は、自分のことを「ことよろしき人」と誤解している、地方の有力者たる男に対し、身寄りがまったくないという事実を打ち明けにくい女の気持ちを推測させる問い。

問六は、女の後悔の理由が、当該傍線部直前の心内語に語られていることに着眼した上で、その内容を二点に整理して書くことができるかどうかを問う設問。

問七は、まず(1)で、女主人が「何となく恨めしき心地」を抱いた対象が長谷寺の観音であることと理解できているか確認し、その上で(2)において、そうした「心地」を抱いた理由を当該傍線部直前の発言から読み取らせようとする問い。

問八は、貧しく身寄りのない女に対し、観音が女の境遇における貧困と孤独という二つの欠損部をまさに補うようなかたちで救済を行っていることを読み取らせようとする設問である。

第三問(B)

問一は、傍線部について、発言の元にある考え方を説明させることによって、傍線部より前の部分の内容を正しく理解し、発言の要点をとらえられているかを試す設問。

問二は、傍線部の現代語訳。「当」の句法の知識を問い、「子当に養を以て心と為すべし」と対であることをふまえて訳すことを求めている。

問三(解答例)

之を食ひて安くんぞ甘きを得ん。

※部分的に異なるところがある解答も正解とした。

問四は、作者の望みを説明させることによって、本文全体の内容を正しく読み取ることができているかどうかを試す設問。